

作業療法学専攻

A 欧 文

A-a

1. Tanaka G, Inadomi H, Kikuchi Y, Ohta Y: Evaluating stigma against mental disorder and related factors. *Psychiatry Clin Neurosci* 58(5): 558-566, 2004 *
2. Funase K, Higashi T, Sakakibara A, Ogahara K, Iwanaga R: Difference of posture-related modulation of H-reflex between forearm and leg muscle. *Adv Exerc Sports Physiol* 10(3): 85-92, 2004
3. Okita M, Yoshimura T, Nakano J, Motomura M, Eguchi K: Effects of reduced joint mobility on sarcomere length, collagen fibril arrangement in the endomysium, and hyaaluuronan in rat soleus muscle. *J Muscle Res Cell Motil* 25(1): 159-166, 2004 * ★
4. Ida H, Kawasaki E, Miyashita T, Tanaka F, Kamachi M, Izumi Y, Huang M, Tamai M, Origuchi T, Kawakami A, Migita K, Motomura M, Yoshimura T, Eguchi K: A novel mutation (T611) in the gene encoding tumour necrosis factor receptor superfamily 1A (TNFRSF1A) in a Japanese patient with tumour necrosis factor receptor-associated periodic syndrome (TRAPS) associated with systemic lupus erythematosus. *Rheumatology* 43(10): 1292-1299, 2004 * ◎◇

A-b

1. Hanzawa S, Tanaka G, Inadomi H, Urata M, Ohta Y: Causes for the burden of care felt by the mothers of patients with schizophrenia. *Japanese Bulletin of Social Psychiatry* 13(2): 272, 2004
2. Inadomi H, Tanaka G, Kikuchi Y, Ohta Y: Features of the Baum test associated with serial learning in patients with schizophrenia whose occupational skills enable independence. *Japanese Bulletin of Social Psychiatry* 13(2): 290, 2004
3. Kinoshita H, Ishizaki Y, Nakane H, Ozawa H, Tanaka G, Inadomi H, Agatsuma Y, Ohta Y: A 13 years follow-up study of psychiatric problems in evacuees from Mt Unzen and Fugendake volcanic eruption. *Japanese Bulletin of Social Psychiatry* 13(2): 297, 2004
4. Tanaka G, Inadomi H, Hanzawa S, Kikuchi Y, Ohta Y: Evaluating self-stigma among people with mental disorders and related factors. *Japanese Bulletin of Social Psychiatry* 13(2): 301, 2004

B 邦 文

B-a

1. 田中悟郎：精神障害者に対する住民意識—自由回答の分析—。共生社会学 4：31-41, 2004
2. 岩永竜一郎, 十枝はるか, 土田玲子：発達障害学齢児の示す問題の解決方法に関する小学校教師の考え方。長崎作業療法学研究 1(1)：3-7, 2004
3. 岩永竜一郎, 十枝はるか, 土田玲子, 太田篤志：自閉症幼児のCARSスコアと感覚刺激に対する反応異常の関係。長崎作業療法学研究 1(1)：20-23, 2004
4. 東登志夫, 鶴崎俊哉, 船瀬広三, 沖田 実, 岩永竜一郎, 野口義夫：等尺性収縮時における肘関節角度が肘関節屈筋群の筋疲労と筋出力に及ぼす影響。理学療法科学 19(2)：121-125, 2004
5. 茂木千絵, 山口良美, 久和三純, 木元弓恵, 土田玲子, 岩永竜一郎：軽度発達障害学齢児スクリーニングのための積み木構成検査の検討。感覚統合研究 10：55-60, 2004
6. 久和三純, 木元弓恵, 茂木千絵, 山口良美, 土田玲子, 岩永竜一郎：軽度発達障害学齢児スクリーニングのためのバランス検査の検討。感覚統合研究 10：63-69, 2004
7. 岡本真須美, 沖田 実, 加須屋茜, 中野治郎, 鎌塚幸子, 西田まどか, 友利幸之介, 吉村俊朗：不動期間の延長に伴うラット足関節可動域の制限因子の変化—軟部組織(皮膚・筋)と関節構成体由来の制限因子について。理学療法学 31(1)：36-42, 2004
8. 友利幸之助, 中野治郎, 沖田 実, 仲居和代, 大久保篤, 吉村俊朗：間歇的伸張運動と持続的伸張運動によるマウスヒラメ筋の廃用性筋萎縮の進行抑制効果について。理学療法科学 19(1)：31-35, 2004
9. 中居和代, 沖田 実, 豊田紀香, 片岡英樹, 岡本真須美, 中野治郎, 友利幸之介, 吉村俊朗, 辻畑光宏：ラット前脛骨筋に対する異なる周波数での経皮的電気刺激が筋線維肥大効果に及ぼす影響。長崎理学療法 4：18-23, 2004
10. 鎌塚幸子, 沖田 実, 西田まどか, 中野治郎, 岡本真須美, 吉村俊朗：ラット足関節の固定期間の延長に伴う拘縮及び廃用性筋萎縮の進行について。長崎理学療法 4：7-12, 2004
11. 薬師寺祐介, 黒原和博, 吉村俊朗, 山本正彦, 黒田康夫：高齢発症で慢性進行性の経過を辿り, 顔面, 軀幹の感覚障害をともなった遺伝性圧脆弱性ニューロパチーの1例。臨床神経学 44(3)：160-164, 2004
12. 西田まどか, 沖田 実, 福田幸子, 岡本真須美, 中野治郎, 友利幸之介, 吉村俊朗：持続的伸張運動と間歇的

- 伸張運動が拘縮と筋線維におよぼす影響 関節固定法と後肢懸垂法を組み合わせたラットの実験モデルによる検討. 理学療法学 31(5) : 304-311, 2004
13. 中野治郎, 沖田 実, 中居和代, 片岡英樹, 豊田紀香, 友利幸之助, 吉村俊朗, 本村政勝, 江口勝美: アジュバント関節炎ラットの後肢に対する高温, 低温刺激の影響. 理学療法学 31(7) : 404-411, 2004
 14. 沖田 実, 中居和代, 片岡英樹, 豊田紀香, 中野治郎, 折口智樹, 吉村俊朗: 廃用性筋萎縮の予防としての温熱負荷の影響に関する研究. 理学療法学 31(1) : 63-69, 2004
 15. 三根真理子, 柴田義貞, 横田賢一, 吉峯悦子, 本田純久, 近藤久義, 太田保之: 被爆者の生活状況と死亡との関係. 広島医学 57(4) : 342-344, 2004
 16. 田平隆行, 奈良進弘, 小川昌宏: 軽度痴呆症の注意資源配分に関する研究—二重課題法を用いたP300による検討—. 老年精神医学雑誌 15(4) : 425-432, 2004
 17. 三根真理子, 柴田義貞, 横田賢一, 鳥山ふみ子, 本田純久, 近藤久義, 太田保之: 被爆者証言に出現するキーワードに関する研究. 長崎医学会雑誌 79(特集号) : 155-158, 2004
 18. 富野裕子, 尾立奈穂, 中村美香, 森山文子, 吉次ひろみ, 龍山美智子, 三根真理子, 太田保之, 藤岡光夫: 被爆者の社会交流に対する希望分析—被爆者健康意識調査より—. 長崎医学会雑誌 79(特集号) : 183-187, 2004
 19. 荒木みずほ, 尾立奈穂, 中村美香, 森山文子, 吉次ひろみ, 富野裕子, 龍山美智子, 三根真理子, 太田保之, 藤岡光夫: 健康診断の状況—健康意識調査より—. 長崎医学会雑誌 79(特集号) : 188-191, 2004

B-b

1. 岩永竜一郎: 感覚統合とは. アスペハート 7 : 96-100, 2004
2. 岩永竜一郎: 広汎性発達障害児の感覚統合障害. アスペハート 8 : 84-89, 2004
3. 本村政勝, 白石裕一, 吉村俊朗, 辻畑光宏: 新しい重症筋無力症 筋特異的チロシンキナーゼ抗体陽性重症筋無力症. 【重症筋無力症の病態と治療に関する最近の話題】神経治療学 21(1) : 49-54, 2004
4. 本村政勝, 白石裕一, 吉村俊朗, 辻畑光宏: 重症筋無力症 抗MuSK抗体陽性MGについて. 【免疫性神経疾患の病態, 診断, 治療に関する最近の知見】神経免疫学 12(2) : 115-120, 2004
5. 本村政勝, 白石裕一, 吉村俊朗: 傍腫瘍性神経症候群とアフエレスス. 日本アフエレスス学会雑誌 23(3) : 262-272, 2004
6. 本村政勝, 白石裕一, 吉村俊朗, 辻畑光宏: Lambert-Eaton筋無力症候群. 内科医のための脳疾患講座. Brain Medical 16(1) : 76-82, 2004
7. 稲富宏之, 福田健一郎, 田中悟郎, 太田保之: 統合失調症患者の作業遂行技能からみた順序課題の習得プロセス特徴. 作業療法 23(特別号) : 319, 2004
8. 田平隆行, 奈良進弘, 谷口敬道: 痴呆症の同時処理能力に関する研究. 作業療法 23(特別号) : 405, 2004
9. 高橋陽介, 関谷明広, 豊田平介, 西澤 要, 田平隆行: 折鶴からみた両手指強調動作の縦断的分析. 作業療法 23(特別号) : 209, 2004

B-c

1. 太田保之, 吾妻ゆみ: 自然災害. (多文化間精神医学会(編): 大規模緊急事態におけるメンタルヘルス・ケア・ハンドブック, ワールドプランニング, 東京, pp. 59-64 所収) 2004
2. 田平隆行: 後縦靭帯硬化症, パーキンソン症候群の疑いを呈した事例に対する作業療法. (矢谷令子, 福田恵美子(編): 作業療法実践の仕組み(事例編), 協同医書, 東京, pp. 185-194 所収) 2004
3. 田平隆行: 慢性関節リウマチ・他 骨関節疾患への作業療法. (作業療法科学研究会(編): 国試の達人—作業療法編一, アイベック, 東京, pp. 241-247 所収) 2004
4. 田平隆行: 身体障害領域関連疾患への作業療法. (作業療法科学研究会(編): 国試の達人—作業療法編一, アイベック, 東京, pp. 279-306 所収) 2004

B-d

1. 五島保健所地域精神保健医療福祉協議会専門委員会(小田孝, 石井忠八, 松下貴大, 永尾千枝子, 松尾直人, 川口由香, 村田真喜恵, 山田貴恵子, 吉田悦子, 満井浩子, 入江善充, 片山伸子), 田中悟郎: 地域生活に関するニーズ(実状と要望)の調査結果報告書. 五島中央病院紀要 6 : 55-77, 2004
2. 田平隆行, 奈良進弘: 認知的作業負荷量の相違が事象関連電位に及ぼす影響. 長崎大学医学部保健学科紀要 17(1) : 25-29, 2004
3. 鎌田篤子, 長尾哲男, 田平隆行: 介護老人保健施設における言語療法士の老人性難聴者への関わり方—病院に勤務する言語療法士との比較—. 長崎大学医学部保健学科紀要 17(2) : 27-31, 2004
4. 長尾哲男: 高齢難聴者とのコミュニケーション技術を獲得させるための教育方法の研究. 平成14~15年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書, 2004

原著論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	合計	総計
2004	4	4	0	0	8	3	19	9	4	4	36	44

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
2004	0	0	14	14	0	2	39	41	55

原著論文総数に係る教員生産係数一覧

	$\frac{\text{欧文論文総数}}{\text{論文総数}}$	教員生産係数 (欧文論文)	$\frac{\text{SCI掲載論文数}}{\text{欧文論文総数}}$	教員生産係数 (SCI掲載論文)
2004	0.182	0.727	0.375	0.273

Impact factor 値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2004	6.71	0.61	2.237